



## 2007年 新年の挨拶

県士会長 伊藤和夫

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。平素より、士会員の皆様には多大な御協力をいただき有難うございます。本年も何とぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年の士会活動を振り返り、第24回東北理学療法士学会が開催され無事終了できたこと大きな成果であったことと考えます。準備委員会の皆様には大変お世話になりました。事業そのものにつきましては年次計画どおり活動中であります。今後検討すべき課題は事務局機能の強化と士会創立40周年事業、そして法人化が残っています。さらに今年は士会、協会ともに役員選挙が行われます。

さて、昨年の診療報酬改定に見られる医療改革は今後の医療そのものを大きく変えていくものです。とくにリハビリテーションに関してはいまさら言うまでもありませんが、多大な影響を受けました。県士会としても会員の職場環境について調査すべきものと考えています。

日本リハビリテーション医学会は昨年11月21日付けで厚生労働大臣宛に「平成18年診療報酬改定におけるリハビリテーション料に関する意見書」を提出しています。意見項目は以下の4点です。

1. 疾患別リハビリテーション診療報酬体系の中に「総合リハビリテーション施設」を取り入れること。
2. 算定日数の制限は、問題症例を生み出す恐れがあり、見直しが必要。
3. 代替医療者の参入緩和は、国民が専門職による質の高いリハビリテーションを受ける機会を減じる恐れがあり、慎重な対応が必要。
4. 理学療法・作業療法・言語聴覚療法の削除は専門性に係わる重要な課題であり、見直しが必要、以上です。

いわゆるリハ医療関連5団体協議会が話し合いを継続しています。なかなか詳細については報告されていませんが、各団体とも主義主張や利害関係のみならず、患者・利用者の声も反映されるように期待したいものです（東大元教授の多田富雄氏の“患者から見たリハビリテーション医学の理念”は<http://www5b.biglobe.ne.jp/~polio/archive/Re-habilis.pdf>をご覧ください）。

今、協会内ではこれから検討すべきものとして次の課題が指摘されております。簡単に内容を紹介します。診療報酬改定について厚労省は昨年9月から12月にかけて調査、中医協へは今年1月から3月に報告予定である。在院日数の短縮に伴い、急性期から在宅医療、福祉分野への関わり。

平成20年スタートする後期高齢者医療制度の診療報酬は未決定である。中医協では平成19年度中、75歳以上のリハビリテーション対象者をいかにすべきか検討する。介護保険分野では、残念ながら介護予防でのマニュアル上から理学療法士の専門性が消えた（既に健康運動士に越された）。ヘルスプロモーション分野での関わりかた（健康局のキャンペーン、メタボリックシンドローム、栄養指導と運動、保険者の健診・指導の義務化）、運動指導は誰が行うものか、などです。

今年は、診療・介護報酬改定の準備の年となります。平成20年は今まで以上の大きな改定がなされます。今後の国策プランは既に公開されています。当士会の会員数はやがて500名まもなくです。今後ますます若い年代構成となります。士会運営を検討・充実しつつ、皆様方の大いなる活躍と本会の発展を祈願するものです。

# 平成18年度第4回青森県理学療法士会理事会議事録要約

事務局長 後藤明教

日時：平成18年12月3日(日)午前9時30分～12時

場所：青森県立保健大学

出席者：相馬光明、小村 博、中村正直、村上三四郎、山谷光仁、佐藤比呂子、後藤明教  
三浦時男、山田 伸

案件：

## ・報告事項

- 1) 全国士会長会議報告：詳細は士会ニュース No.285 へ掲載
- 2) 東北ブロック協議会報告：詳細は士会ニュース No.285 へ掲載
- 3) 第24回東北理学療法士学会報告
  - ・全体としては、参加者 451 名となり皆さんの協力のおかげで成功裏に終了出来た。ただ、他の講演会とも重なっており、ロビーが混雑していた。また、セミナーの会場が70名定員であり、聴講者が入りきれなかったため、もう少し大きい会場の設定が必要であった。
  - ・表彰や次期学会長挨拶の人が少なかったため、アナウンスの工夫が必要であったのでは。
  - ・抄録集の発送作業が、遅かったように思える。
  - ・レセプションを行わなかったが、今後の検討課題である。

## ・協議事項

### 1. 各部局より

#### 1) 事務局

- ・会員証作製者 156 名(11月20日現在)  
全会員に義務づけられていることなので、ニュース等で啓蒙する。

#### 2) 学術局

- ・第2回士会研修会は10月29日(日)東北メディカル学院にて開催  
テーマ「リハビリテーションにおける行動科学アプローチ」  
講師(社)地域医療振興協会 地域医療研究所 地域医療センター  
船越 樹先生、福土元春先生
- ・第3回士会研修会は12月2日(土)県立保健大学にて開催 38名の参加。  
テーマ1：「考え方のクセを知って上手にストレスコントロール～認知行動療法入門～」  
講師 南部町役場名川分庁舎 健康増進課 主任保健師 佐藤恭子先生  
テーマ2：「認知療法の緩和ケア」講師(社)天寿園会総括マネジャー 工藤美智子先生
- ・士会症例検討会は12月3日(日)、青森県立保健大を会場に12題の症例発表。
- ・特別講習会は、10月21～22日(日)弘前大学を会場に開催 44名の参加。  
テーマ「関節疾患の運動療法」講師 神奈川県立保健福祉大学 石井慎一郎先生
- ・現職者講習会は、9月15～17日(日)青森県立保健大学・あおもり協立病院を会場に開催  
テーマ「PNF-基礎から応用まで」講師 高橋護先生
- ・学術誌編集部  
医中誌より理学療法研究の著者抄録の利用許諾についてお願いの文書

#### 3) 社会局

- ・医療保険部：診療報酬改定ごの施設基準の施設基準
- ・来年早々にも、第2回地域リハビリテーション研修会を開催予定

#### 4) 外交局

- ・青森高校進路・就職ガイダンスへ講師派遣。
- ・ホームページの委託先を検討に入る。

#### 5) 組織検討委員会

- ・支部事務局の設定、支部役員の選考をお願いしたい。

- ・支部への予算化（助成金）は、基本額 10 万円 +（500 円 × 支部人数）でどうか。
  - ・支部の設立総会を県土会の学会時に時間を設けて行えるように検討する。
2. その他
- 1) 次回の理事会は、1 月 20 日に開催予定。

## 告 示

青森県理学療法士会  
選挙管理委員会

委員長 向山 勇一

青森県理学療法士会役員の任期満了に伴い、青森県理学療法士会定款第10条及び同細則5により、来る定期総会において役員選挙を行います。  
よってここに役員立候補を受け付けます。

1. 選挙権と被選挙権

平成19年1月16日現在の会員は、選挙権と被選挙権を有します。

2. 選挙すべき役員の種別と定数

会長 1名  
理事 8名以上12名以内（会長を含まない）  
監事 2名

3. 選挙期日

平成19年3月17日（定期総会）。

4. 立候補受付期間

平成19年1月16日から1月29日までの14日間とします（当日消印有効）。

5. 立候補届出書の様式

本人の自由意志による立候補の場合は、「立候補届出書様式第1号」に基づいて、選挙管理委員長に届け出て下さい。

推薦による立候補の場合は、「立候補届出書様式第2号」を用い、推薦者3名の代表が本人の同意を得て、選挙管理委員長に届け出て下さい。

6. 立候補届出受領確認書の交付

届け出受領後は、立候補者本人に「届け出受領確認書」を交付します。

「届け出受領確認書」が届かない場合は、選挙管理委員長に申し出て下さい。

7. 立候補者の趣旨書

400字以内で下記の順に書き、届出書と一緒に提出して下さい。

氏名 年齢 勤務先 立候補の趣旨、主張、公約など

8. 問い合わせと立候補届出先

立候補に関する問い合わせは、選挙管理委員長に直接御連絡下さい。

立候補届出書は「直接」又は「書留郵便」で選挙管理委員長に提出して下さい。

〒039-1517 三戸郡五戸町沢向17 - 3  
五戸総合病院 リハビリテーション診療科  
向山 勇一 宛  
TEL 0178-61-1200（内線150）

## 平成18年度青森県理学療法士会症例検討会の印象記

東北メディカル学院 向 正希

さる12月3日に開催されました、青森県理学療法士会症例検討会に進行役として出席させていただきました。

本年度より青森県士会の一員に加えていただいているから、初めての表舞台への参加ということで私もかなり緊張しながら出席させていただいた訳ですけれども、ざっくばらんな会にしたいという学術局側の意向もあって、“座長”ではなく“進行役”、座長席は無くフロア側に同席、1時間近く設けられたフリーディスカッションは参加者全員が車座で、といったアットホームな雰囲気の中で、参加された方々に助けられ不慣れながらも進行役を務めることができたのではないかと振り返っております。

当日はあいにくの豪雪ではありましたが、新人の皆さんを中心に、中堅・ベテランの諸先輩も含めて40名程の参加人数の中、演題は中枢神経疾患を中心に12題、退院後のフォローアップ、術後疼痛へのアプローチ、認知症への対応、既存の装具の補整、自宅復帰に向けて歩行補助具を如何に選択するか、といった各領域を跨いだ発表が、1時間ほどのセッションを4セッション、午前午後のほぼ一日を使って行われました。いずれの発表も非常に良くまとまっていて、私が新人だった頃とのギャップに、また、文字をほとんど使わない動画でのプレゼンテーションなど、発表方法の工夫にも驚かされるばかりでした。

ただ、あえて今回の症例検討会で気になった点を挙げるとすると、質疑応答あるいはフリーディスカッションの時間に、発言していたのが先輩方ばかりだったことでしょうか。かく言う私も積極性、臨機応変、明朗活発などという言葉にはアレルギー反応を起こす人間の一人ではありますけれども、行動変容などといった最近のトピックスに後押しされつつ、みなさんと共に成長し、この業界を盛り上げていければいいなと思う次第です。

総合リハビリ美保野病院 蝦夷森麻美

12月3日、青森県立保健大学で行われた症例検討会にて、今回3度目の脳梗塞を発症した症例の歩行に対するアプローチについて発表させていただきました。

発表するにあたって、症例をまとめたスライドや原稿作りに苦勞し、当院の先生方からアドバイスをいただき、なんとか発表の形にまで作りましたが、発表当日まで原稿を読み返しては書き直していました。

発表当日、自分の番が来ると更に緊張し、原稿を読むだけで精一杯でした。質疑応答では思うように自分の意見を言うことが出来ず、反省すべき点が多々ありました。他の発表やフリーディスカッションでは他院の先生方からの貴重な意見を聞くことができ、今後参考にしていきたいと強く感じました。

今回の症例検討会に参加でき本当に良かったと思えました。今後、今回の症例検討会で得たことを患者様と向き合っていく日々のなかで活用していきたいと思えます。

# 忘年会の報告

福利厚生部 藤田俊文

12月2日(土)に行われた青森県理学療法士会忘年会について報告します。

今回の会場は、青森市古川にある「居酒屋安心市場」にて行われました。名前の通り安心して？飲食ができるような空間があり、料理もボリュームがあり満腹になれる内容でした。参加人数は事前申し込みした14名とサプライズ参加した小村博先生を入れて15名となりました。昨年度よりは参加人数も多く、若手の参加が目立ちました。そのため、雰囲気もいつもより賑やかに感じました。三浦時男先生より乾杯の挨拶をいただき、その後はお酒が入るにつれて参加者のボルテージも上がり大変な盛り上がりとなりました。今回は、いつもの忘年会と違い、大ビンゴ大会？！らしきゲームを行いました。なんと、このゲームの豪華景品は『iPod nano』！。そして、いろいろゴタゴタがあって、めでたくこの景品をゲットした方は、十和田市立病院の山谷光仁先生となりました。おめでとうございました。

今回の忘年会では、大先輩から新人まで幅広く集まっていたいただき、またビンゴ大会も開催し、参加した方に楽しんで頂けたのではと思っています。やはり、普段の研修会や学会などでは話せないような人と交流を持つことができる場所、それが忘年会だと思います。これからももっと、忘年会という1つのきっかけを大切にしPT同士の連携を強めていくことが必要と思います。

来年度も、いろいろ企画を考え、もっと楽しい忘年会にしたいと思っておりますので、是非たくさんのご参加をよろしくお願いいたします。

# ～ 理学療法士求人情報 ～

## 弘前大学医学部附属病院

1. 募集職種：弘前大学医学部附属病院 リハビリテーション部  
理学療法士 契約職員（非常勤）
2. 募集人員：1名
3. 応募資格：理学療法士免許を有する者または取得予定の者
4. 採用予定日：随時
5. 応募要領：
  - (1) 提出書類 履歴書（市販の用紙に写真を貼付し詳しく記入すること）
  - (2) 期限 随時
  - (3) 提出先 弘前大学医学部附属病院 総務課人事担当  
〒036-8563 青森県弘前市本町53番地  
電話 0172-33-5111 内線 6457
6. 選考日時：後日応募者に対して連絡致します。
7. 照会先：弘前大学医学部附属病院 リハビリテーション部  
〒036-8563 青森県弘前市本町53番地  
電話 0172-39-5318（直通）  
担当：塚本利昭（主任理学療法士）

## 各局通信

### 【学術局通信】

#### 平成18年度学術奨励賞選考への応募に関するお知らせ

表彰委員会委員長 石川 玲

学術奨励賞は、士会員、特に若手会員による活発な学術研究活動を推進することを目的に、平成元年度から設けられた表彰制度です。毎年、優れた学術研究活動を実践したと認められる士会員1～2名を表彰委員会が選考し、理事会の承認を経て3月の士会学会の場で表彰を行います。受賞者には表彰状の他、記念品と楯が贈呈されます。

受賞者の選考は、学術論文、学会発表（士会学会、東北学会、日本理学療法士学会、他の関連学会や研究会）、継続的に取り組んでいる学術研究活動の成果等をもとに行われます。

表彰委員会では、上記の選考資料をできる限り広く入手するよう努めておりますが、委員の数も限られており、士会員による学術研究活動に関するすべての情報を収集することが困難な状況にあります。

そこで、委員会では公正な選考を行い、かつ、多くの士会員の学術研究活動の心意気に応えるために、例年、士会員から学術研究活動に関する申告をしていただき、それらを選考の参考にさせていただいております。

ついては、我こそはと思う士会員の方は、学術研究活動リスト（別紙）を下記の要領で表彰委員会までお送りください。多くの士会員が学術奨励賞選考に奮ってチャレンジされることを期待しております。

#### 【応募要領】

別紙の申告用紙を用いて(自作した同様書式用紙の使用可)、今年度の学術研究活動、または継続中の学術研究活動を郵送にて表彰委員会までご報告下さい。〆切は平成19年1月31日必着とします。なお、実績として認められるものには、主著・共著論文、学会・研究会での発表(共同演者でも可)の他、土会症例検討発表会での発表、院内発表なども含みますので、発表または報告したものはすべてご記入下さい。

応募先(問い合わせ先)

〒036-8564 弘前市本町66-1

弘前大学医学部保健学科理学療法学専攻内

石川 玲

TEL0172-39-5978 FAX 0172-39-5981

## 新人教育プログラム修了者の認定手続きについて

学術局新人教育部 中江 秀幸

新人教育プログラムの所定単位を取得された士会員の方は、必要書類を同封の上、下記までご郵送下さい。本年度分をとりまとめ、日本理学療法士協会へ申請・終了証発行を依頼します。協会から終了証が届き次第、勤務先へ送付いたします。送付は新年度平成19年4月中旬となる予定ですので、勤務先の変更が予定されている場合には、新勤務先も明記下さい。

なお、3年間の18単位という規定ですので、18単位以上という条件の他、卒後3年経過後も条件になります。

#### 必要書類

1. 生涯学習手帳の2～3頁部分の複写(氏名・会員番号、入会年度などが記載ある頁)
2. 生涯学習手帳の新人教育プログラムページ該当部分の複写

但し、検印を受けてある部分のみ有効となります。

新人教育プログラム単位の履修開始年月日と履修終了年月日を別紙に記載していただくか、あるいは新人教育プログラムの開始と終了となったテーマ欄部分に を記載して下さい。

#### 平成18年度 新人教育プログラム修了認定の受付期間

受付開始：平成18年3月1日 本年度受付締切：平成18年3月23日(金曜日)必着

なお、期限を過ぎた場合には、次年度に再申請して頂く事になります。

#### 「問い合わせ・送付先」

学術局新人教育部

〒039-1522 青森県三戸郡五戸町字苗代沢3番地638

学校法人臨研学舎 東北メディカル学院 理学療法学科 中江 秀幸

電話：0178-61-0606 FAX：0178-61-0034 e-mail:nakae@rinken.ac.jp

## 【財務部通信】

### 17年度会費納入について

次の方は、下記へ振込お願いします（12月21日現在）

**岩井 和広、奥平 和美 11,000 円のみ**

協会費 11,000 円の振込先 振込み手数料 120 円

郵便振替で 口座番号 00130-3-78642

加入者名 社団法人 日本理学療法士協会

通信欄に

記入例 〔平成 17 年度会費 1 名分 佐藤洋 8692〕 協会会員番号

と記入して下さい。払込人住所氏名は、施設名の住所氏名で結構です。

### 18年度会費納入について

未納者（12月21日現在）

石川 孝幸、柳谷 誠、奈良 剛、今 千佳子、館山 智格、成田 康子、  
山内 茂寛、加藤 義人、長瀬 明弘、盛田 寛明、関 貴子、岩井 和広、  
阿部 透、永井 弥生、大塚 聖子、菊池 修一、上川 香織、木野美也子、  
吉田奈緒子、奥平 和美、小野 寿子、遠嶋 和美、川田 充顕、中西 慎吾、  
中村 明子、小野寺 遊、中西 祐子、照井 理沙、佐々木千賀子  
李 相潤（12,000 円）

未納者の方へ

クレジット付会員証の作製をお願いします。以後、自動にて引き落としされます。

クレジット付会員証の発行が不能の方へ

会費については自動引落としを使用して頂くことになっています。

ダイヤモンドファクターにて自動引き落とし利用の方へ

来年度に向けて、クレジット付会員証の作製をお願いします。

会員証の詳細は協会のホームページにも載っていますので、是非ご覧下さい。

不明な点は 国立青森病院 リハビリテーション科  
佐藤 洋

TEL 0172-62-4055(271)

E-mail rehab@aomori.hosp.go.jp

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

## 【ニュース編集部通信】

### 求人募集掲載のご案内

ニュース編集部では、県内にあります病院・施設でリハビリスタッフ不足に悩んでいる方々から求人募集掲載を例年行っております。掲載希望の先生、関係者の方がおりましたら、以下の項目をご検討の上、各ブロック担当者に FAX、E-mail のいずれかにて送付して下さい。ご不明な点につきましては、編集部長までお問い合わせください。

施設名	職種	勤務形態	業務形態
勤務形態	その他	問合せ先(担当者名)	掲載希望期間

### 原稿受付に関するお知らせ

原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、次頁の各ブロック担当者に FAX、E-mail のいずれかにて送付して下さい。連絡先をお確かめの上、お問い合わせまたは原稿の送付をお願い致します。

なお、ご不明な点につきましては、編集部長またはブロック担当者までお問い合わせください。

次回の原稿締切日：平成19年1月23日(火曜日)

青森県士会ホームページアドレス

<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/ptaomori/>

### § ニュース編集部ブロック担当者 §

東青・むつ下北：工藤 寛教（あおもり協立病院）

〒030-0847 青森市東大野2丁目1番地10号 TEL 017-762-5500 FAX017-729-3260

E-mail: celeste\_urg1@mail.goo.ne.jp

(電話・FAXは病院、メールアドレスは工藤先生個人のものであります。ご注意ください。)

三八・上十三：川口 恵理（シルバー病院）

〒039-1161 八戸市河原木字八太郎山10-444 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail: ptsilver4000@sg-silver.or.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

中弘南黒・西北五：藤田 俊文（弘前大学医学部保健学科理学療法学専攻）

〒036-8564 青森県弘前市本町66-1 Tel 0172-39-5981 (直通&Fax 兼用)

E-mail: pttoshi@cc.hirosaki-u.ac.jp

事務局ニュース編集部長：梅村 孝博（東北メディカル学院）  
〒 039-1522 五戸町字苗代沢 3-6 TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034  
E-mail : pt.umemura@rinken.ac.jp

編集委員：伴 久美子（黒石病院）  
工藤 寛教（あおもり協立病院）  
藤田 俊文（弘前大学）  
川口 恵理（シルバー病院）  
豊嶋 大輔（八戸城北病院）  
加藤 義人（なかざわスポーツクリニック）  
久保 稔（南郷メディエルデプラザ）

外交局広報部（HP 担当）：安田 友久（青森労災病院）

---

#### 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

年を越すごとに月日の早さを痛感しますが、昨年は4月の診療報酬改定での動揺に始まり、青森県で開催となった東北学会など、県士会の皆様にとってもめまぐるしい年だったことと思います。いよいよ本格的な冬となり、八戸はピッカピカに凍結した通勤路を運転する、私にとって最も苦痛な季節となりました。県内はどこも積雪や凍結に悩まされる季節ですので、車の運転には皆様もお気をつけ下さいね。今年もよろしくお願い致します。  
(文責：川口)

---

#### 奥 付

編集；青森県理学療法士会  
発行；PT 事務局・ときわ会病院リハビリテーション科内  
〒038-1216 南津軽郡藤崎町榊字亀田2-1  
PHONE・FAX 0172-65-3698  
E-mail ; ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp

(様式第1号)

立 候 補 届 出 書  
平成 年 月 日  
青森県理学療法士会  
選挙管理委員長 殿

立候補役職名  
氏名  
生年月日  
所属施設名

上記の通り立候補いたします。

立候補者氏名

(様式第2号)

推 薦 立 候 補 届 出 書  
平成 年 月 日  
青森県理学療法士会  
選挙管理委員長 殿

立候補役職名  
推薦者氏名  
生年月日  
所属施設名

上記の通り本人の了解を得て推薦いたします。

推薦人氏名  
氏名  
氏名

上記の通り推薦を受け立候補することを了承いたしました。

立候補者氏名